

# もんし 聞思

発行所 光山寺  
〒758-0063  
萩市 大字山田4553  
TEL (0838) 22-1370  
http://kousanji.net

足ることを 知らない人は  
有つても 苦しんでいる  
足ることを 知る人は  
無くても 楽しんでる  
寺川幽芳

## 御消息について法要奉告伝

第25代専如ご門主は1月16日、本山の御正忌報恩講ご満座後、「伝灯奉告法要」について御消息を御披露されました。この伝灯奉告法要は、ご門主が法統を継承されたことを先祖の御前に奉告するとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを期するもので、平成28・29年に修行されることになりました。(ご消息)とはお手紙のこと。特に浄土真宗では、さまざまに縁に際して、歴代の宗主が、そのおこころを広く伝えるために出される書簡をいう)以下に、その全文を掲載します。

去る平成26年6月6日、前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主として務めてまいりました。ここに法統継承を先祖の御前に奉告いたしますとともに、あわせて本願念仏のご法義の隆盛と宗門の充実発展とを期して、平成28年および29年に、伝灯奉告法要をお勧めすることになりました。

阿弥陀如来のご本願は、あらゆる存在を分け隔てなくそのまますま救おうとはたらきかけていくとされています。迷いと苦悩をかかえる私たちは、阿弥陀如来のお慈悲ひとすじにこの身を任せ、真実のさとりの世界であるお浄土に生まれていくべき身にならせていただきます。宗祖親鸞聖人が「そらごとたわごと」とお示しくださった私たち自身を言ひ迷いの世界は、何一つとしてたよりになるものはありませんが、ご本願のはたらきの中に生きる私たちは、確かな依りどころを持つことができず、科学技術の発達による便利で豊かな生活の追求や欲望の肥大化はとどまることを知りませんが、人々は、そのような豊かさを追求めることの虚しさを感じ、

うか。しかも、核家族化・人口の流動化などによって社会構造は大きく変化し、人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出しています。さらに世界に眼を移せば、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、人類の生存に関わる課題が露呈しています。これらの傾向は今後一層強くなっていくことと見られます。私たちは、凡愚のまま摂め取つて捨てないとはたらき続けていくと、さる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることが大切です。それとともに仏智に教え導かれて生きる念仏者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります。まさにこのような営みの先にこそ、「自他共に心豊かに生きる」ことのできる社会の実現に貢献する「道が拓かれていく」のであります。



如來の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思つています。宗門では、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年に向けて新たな長期計画が策定されます。皆様の積極的なご協力にご参画を心からお願いいたします。

平成27年1月16日  
龍谷門主 釋專如

■カトマンズ本願寺から復興支援募金のお知らせ  
現地時間の4月25日正午前、日本時間の午後3時すぎ、ネパール中部を震源とするマグニチュード7.9の地震がありました。震源は首都カトマンズの北西80キロ付近とみられ、現地ではその後も余震とみられる地震が相次いでいます。お寺は、本堂の壁と天井、それから敷地に至る通路の塀が壊れる被害がありました。カトマンズ本願寺のメンバーは全員無事でしたが、地震は町の美しく貴重な歴史的建造物や自然を破壊しただけでなく、多くの死と絶望の風景を残しました。カトマンズ本願寺のメンバーは、今助けを必要とされている人や物に対して、最善を尽くして支援活動に取り組んでいます。カトマンズ本願寺はカトマンズ地域の復興支援の募金活動をいたします。尚、この募金は宗教や民族を超えて支援するものです。

カトマンズ本願寺支援基金  
口座名：カトマンズ本願寺支援基金  
記号 17470 番号 32205691 (郵便振替用)



※他金融機関より送金、店名・店番とも748、普通口座3220569

### 光山寺行事案内

平成二十七年年度前半の光山寺行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

#### ★光山寺法要

五月一日(金・土曜) 春季永代経法要(講師、中島昭念師)  
九月二四・二五日(木・金曜) 秋季永代経法要(講師、上原泰教師)

#### ★山口教区・萩組

五月二〇日(水曜) 萩組初参式(萩幼稚園)  
五月二三日(土曜) 萩組総代会総会・研修会(泉流寺)  
六月一〇日(水曜) 山口別院、永代経法要(萩組参拜日)

六月二日(金曜) 萩組仏教壮年会総会・研修会(明光寺)  
六月二四日(日曜) 萩組仏教婦人会大会(萩幼稚園)  
七月二五・二六日 萩組子供一泊合宿(萩幼稚園)

#### ★子供会(土曜学校)

五月二六日(土曜)・六月二〇日(日曜)・七月十八日(土曜)  
八月二日(日曜) ※原則第三土曜家族の日開催。

#### ★仏教青年会

子供会と合同開催(庫裏)  
五月二六日(日曜)・八月二日(日曜)

#### ★仏教壮年会

六月一四日(日曜) 午後七時 仏教壮年会総会(本堂)  
九月二七日(日曜) 午後二時 光山寺ソフトボール大会

#### ★仏教婦人会

五月十七日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式  
六月二五日(木曜) 午前八時半 清掃・莊嚴・リハーサル  
六月二七・二八日(土・日曜) 光山寺婦人会法座(桑原昭信師)

#### ★総代会

五月一七日(日曜) 午後四時(本堂) 総会  
五月一七日(日曜) 午後二時(本堂)

#### ★護持会

五月一七日(日曜) 午後二時(本堂)  
★お経の練習会(旧、礼讃の夕べ) 午後八時(本堂)  
五月九日(土曜)・六月十三日(土曜)・七月四日(日曜)  
八月八日(土曜)・九月十二日(土曜)・十月十日(土曜)

#### ★親鸞聖人讃仰会

午後八時(本堂)  
六月十五日(月曜)・八月十日(月曜)  
★雅楽練習会 午後七時半(庫裏)  
五月二四日(日曜)・六月二一日(日曜)  
※コーラスの練習日程についてはお問い合わせください。

# 募集・お知らせ



●お経の練習会(旧、礼讃の夕)五月九日(土曜日)午後八時より今年も!

「正信念仏偈」等の練習をしてきましたお経の練習会も今年で二十五年目となります。ごなたでも参加できるお経の練習会として、本年も五月から十月までの月一度の練習(原則第二土曜日の午後八時)で、お経本(聖典)を中心に日常の基本的勤行の一通りを練習したいと思っております。お経本をお持ちでない方は光山寺にて用意しますので参加当日にお申し出ください。最近では新しい参加の方も増えています。お若い方はじめて参加の方は大歓迎です。お申し込みは無料です。

●光山寺初参式 五月十七日(日曜) 午前九時半

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十八日光山寺本堂にて開催されます。生後三年くらいまでのお子さんが対象となります。仏の子として育てたため仏教のご縁に初めてあう合同の初参式です。昨今子供の減少が激しいところですが、どうかご親戚等に対象となるお子さんがいらっしゃいましたら是非お申し込み、ご参加ください。尚、お子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。また、菘組の初参式は五月二十日に菘幼稚園にて開催予定です。こちらもご参加受付中です。

●祝鸞聖人讃仰会 〆云〆目録募集!

親鸞聖人のみ教を讃仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人讃仰会」を四月よりスタートしましたので、新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず、広く親鸞聖人のみ教を勉強する学習会です。年会費は二千円で二月に一回の開催。西本願寺の『季刊せいけん』を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出ください。尚、開催は偶数月第二土曜日の午後八時より(次回六月十五日)となります。詳細は別紙にて申し込みください。

●菘組門信徒の集い(記念法座)今年も市民館で開催

前門主さまの菘組「巡教を記念して毎年開催される菘組記念法座は本年度は秋市民館にて七月十九日(日曜日)の午後一時半から開催されることとなりました。本年は仏教文化講演会という形で、「落語と仏教」で有名な相愛大学教授の釈徹宗先生を迎えての講演と、落語家の桂塩鯛さんが真宗と関係する落語の実演もされる予定です。今年も法座という形式でないために、受付等はなく、入場料も無料です。多くの皆様にご参加いただきたいと思います。お誘い合わせてご参加ください。



## 除夜会で富くじ抽選会を盛大に開催

大晦日恒例の除夜会では、昨年末も富くじが実施されました。例年、除夜会は大晦日午後十一時半すぎより開催されるが、一昨年より鐘をつかれる方全員に富くじ抽選券を配布し、除夜会終了後の新年のお勤め「修正会」に引き続き、富くじ抽選会を実施しています。昨年も六十名を超える参加者があり、富くじ景品を得た人も二十人と、盛況にて終了しました。景品出品経費に際しては総代会と仏教青年会より、また福引き抽選会では仏教壮年会員にご協力頂きました。

## 念仏者列伝「松陰の妹、寿」



寿は、杉百舌之助の次女、松陰の妹で寿子、久子、あるいは希子とも書いた。十五歳の嘉永六年(一八五三)小田村伊之助(後の楢取素彦)と結婚し、翌安政元年(一八五四)に長男篤太郎(小田村希家)、安政五年に次男久米次郎(楢取道明)をもつた。元治元年(一八六四)夫が棕梨藤太らにより野山獄に投獄された時や慶応二年(一八六六)の第一次長州征討(長州戦争、四境戦争ともいう)のときには、烈婦として評判が高かったと伝わる。

明治三年(一八七〇)から数年、夫と共に三隅村「一条達の松楓山荘」(現山口県長門市)に隠棲し、小堂(木像の阿彌陀如来安置)を建て、月々一回村民向けに定期的に僧侶を招いて法話を開催する。後に、夫が熊谷県令(明治七年(一八七四)や群馬県令に就任(明治九年(一八七六)すると、仏法少なく風俗荒い県民教諭のため浄土真宗の布教を望み、西本願寺明如上人の命にて関東開教布教に出向いていた僧侶(関東開教主任が小野島行薫(山口県熊毛郡光井村真福寺)を招き、夫と共に群馬県等関東各地の説教所開設に尽力した。また、群馬県では生糸の直輸出を図る新井領一郎の渡米に際して、兄松陰の形見としての短刀を渡した)とも知られる。明治十二年(一八八〇)には、前橋に本願寺派説教所(現、清光寺、群馬県前橋市)を建立したが、中風(脳血管障害)で健康すべし、明治十四年(一八八一)一月に死去している。

寿子の行実については所伝が伝えているが、『杉希子』(明治二十三年)なる小冊子がある。そこには関東での開教事情を次のように記載している。「明治四年素彦君足柄県令に任じ明治七年の夏、熊谷県令に転任せられしより、希子も、同く其地に、移り住されしが、熊谷県は、上野武蔵の二國に跨り、元来、佛法少き地故、風俗あらへくして、往々、地方守

の法度を、犯す者多ければ、希子は、先県令官等を勧め、仏法を聴しめそれより、追々下民に、法義を弘め、牧民の助とをしめ。同九年、熊谷県令を上州前橋に移し、群馬県と改称す。希子、又前橋に移り、愈々、佛法興隆に、力を尽し、終に真宗布教の基を、群馬県下に開たるは、実に希子の力、多に居ると云ふとあり、関東布教に住持した小野島行薫も寿子と楢取素彦については後年言及している。

また、明治十四年一月三十日に往生の素懐を享年四十三歳にて遂げた寿子は、長男に小田村家(楢取の旧姓)を継がせ、次男は出て入坂家(後に楢取家へ戻る)を継がせているが、その両息子の嫁へ(たか子、すみ子)自筆の遺言状をしたためている。そこには、「我真宗の法義はかたじけなくも、全国無二の教法にして、我等如き、愚昧の者にも聞ひらき、易き、他力本願に候へば、よくよく心を止め、聴聞すれば、御慈悲にて候間信心は、頂かると御示にて、自然と、心中に、御入満ち下さるる、他力不思議の御はたらきにて、凡夫の力をはげます(はず)か?、只我身の浅まし、つたなく、罪障ふかき事を思ひ知り、かかる機を、助けたまふ、仏の広大なる、願力を、疑ひなく信じ、罪も障りもみな、御仏に、任せ奉りて、往生の大事を、安堵するばかりと、聴聞申し候」と述べ、それ以降には、信心獲得後の俗諦門として、男は男、女は女の道を尽くして、人には真実を持って交わり、俛約質素を本とする心得が続いている。続いて、「去れば暫しの世の中は、心に叶はぬことあるとも、やがて極楽往生の、楽しみを思はば、苦にならず、国の為や、法の為、家の為、夫の為、など、世に益あることを為すがこの世、滞留の仕事と心得、夫れを榮み進みて勤むべきことなり、これ誠に我国古来今無二の有りがたき真宗、真俗二諦の教えなり、と兼て聴聞申候」と、女性が法義聴聞の心ある身であれば、国や家や夫を思い、心も格別に厚くして機嫌を慰め、内外の者から懐かれるように心がけて、法義聴聞も美しくできるように述べた。また、不思議な因縁で親子の契を結んだのであるから、永き楽しみを一処に結ぶたいとする。このように、臨終に際し、法義相続のつえの生き方を二人の嫁に諭しているのがある。また、注目される点は、その添え書きである。信心獲得したならば、第三十三願「触光柔軟の願」の利益にて、言葉もやわらかに自ずから心なき人も感ずるものと、人の上になつて下の者を使う場合にもその威に随つたつにするよりは、徳に感じて有り難く思つて勤めるようにするのが肝要とまで申している。

以上、寿は当時の人民教化育成においても、真宗の法義を大事とし、聴聞の利益により、品行徳美しく世に及ぼす事を主とした。葬儀に際しては、時の本願寺法主明如上人(光尊)から、特に使僧が派遣せられ、法名を「心月院釈尊照玉映大師」と諡らわっている。